

## 令和7年度予算編成等に係る唐津地域の経済活性化に関する政策提言

### はじめに～加速する人口減少の中で力強い中小企業の創出と魅力ある観光地経営を目指して～

平成17年に市町村合併をして間もなく20年を経ようとしています。

人口の動向を見てみます

#### 人口は消費の源であり、また、労働力そのものです。

その人口が19年間減少し続け、それは加速しています。最初の5年間は、767人/年であったものが最近4年間は、1,450人/年になっています。

地区別にみると、浜玉地区以外はすべて減少しています。特に、巖木、肥前、鎮西、呼子、七山の5地区は30%以上の減少となっています。

総務省の家計調査では二人以上の勤労世帯の一人当たりの年間消費額は約118万円です（2023年）。年間1,450人の人口減少は17億円の消費減をもたらしていることとなります。

いっぽう、国勢調査による生産年齢人口（15才～64才）は平成27年が69,052人、令和2年が62,594人で、5年間で6,458人（1,291人/年）減少しています。人手不足の一因です。

人口減に特効薬はありませんが、参考にあげれば、長崎県大村市は、最近10年間で九州・沖縄で一番人口が減少している長崎県の中にあつて、50年連続人口が増えています（日2023.11.14）。

経済は今年3月19日に日銀が17年ぶりに利上げを行うとともに、11年ぶりに異次元緩和を終了しました。全国的には穏やかな回復基調にあると言えます。「失われた30年」に終止符が打たれようとしています。

いっぽう、地元経済は前述したような人口減による地域の衰退に加え、①円安や原材料・エネルギー価格の高騰による収益の圧迫、②あらゆる分野における人手不足の深刻化、③実質賃金の低下（今年5月で26か月連続低下）による消費の低迷などによって厳しい経営状況が続いています。

困難な中にあつても、観光客の受け入れ、新しい店舗の開店、文化・まちづくり、アクティビティの取り組みの盛り上がりなど経済活性化や街づくりに希望を見いだす事象も多くあります。今後も当事者意識をもって地域経済の振興に取り組んでいきます。

【図表1：唐津市の合併後19年間の人口の推移】

地区	2005(H17)	2010(H22)	2015(H27)	2020(R2)	2024(R6)	対'05年比
唐津	80,137	79,166	78,174	75,816	73,315	△6,822(8.5%減)
浜玉	10,620	11,031	11,206	11,536	11,840	1,220(11.5%増)
巖木	5,625	5,082	4,551	3,955	3,504	△2,121(37.7%減)
相知	9,214	8,684	8,133	7,318	6,646	△2,568(27.9%減)
北波多	4,875	4,846	4,527	4,287	3,998	△877(18.0%減)
肥前	9,329	8,563	7,610	6,611	5,790	△3,539(37.0%減)
鎮西	7,381	6,706	5,956	5,411	4,800	△2,581(35.0%減)
呼子	6,141	5,613	5,107	4,334	3,806	△2,335(38.0%減)
七山	2,701	2,495	2,258	2,010	1,776	△925(34.2%減)
合計	136,023	132,186	127,522	121,278	115,475	△20,548(15.1%減)
対5年前比		(△3,837)	(△4,664)	(△6,244)	(△5,803 ※対4年前比)	
玄海	6,970	6,619	6,137	5,503	4,966	△2,004(28.8%減)
対5年前比		(△351)	(△482)	(△634)	(△537 ※対4年前比)	

※1. 唐津市の人口は各年1月1日時点の住民基本台帳による。  
 ※2. 七山村はH18.1.1に合併したが、便宜上H17の表に組み込んでいる。  
 ※3. 玄海町の人口は前年12月31日の人口を唐津市と合わせるため、翌年1月1日の人口としている。

そのうえで、地域経済の状況を踏まえいくつかの政策提言を申し上げます。

## 1. 中小企業・小規模企業の経営力強化こそが地域経済を支えます。

唐津市の市内総生産額 3,496 億円のうち第一次産業が 3.7%、第 2 次産業が 27.2%、第 3 次産業が 68.9%です。第 2 次、第 3 次で合計 96%以上を占めています。産業別人口を見ると第 1 次産業の 10.6%に対し第 2 次、第 3 次産業は 9 割近くを占めています（唐津市論点データ集/令和 6 年）。

### 第 2 次・第 3 次産業(中小企業等)の振興なくして「地域の再生・発展」はありません。

唐津市の当初予算を見ると歳出総額 840 億円のうち商工費は 21 億円で 2.4%を占めています。農林水産業費は 41 億円で 4.8%となっています。中小企業・小規模企業の経営力強化に資する商工費の大幅な拡充を求めます。

#### (1) きめ細かな中小企業・小規模企業振興対策の推進

唐津の地場企業はすべて中小企業・小規模企業であり、唐津の経済を支えているにもかかわらず様々な課題を抱えており当事者のみの努力では解決できないのが実情です。

##### 1) 円安・原材料高、適正な価格転嫁、人手不足、消費低迷などに対する支援策の充実

①コロナ借換補償制度終了後においても長期化する物価高騰等の影響を受けた中小・小規模事業者の資金繰り支援として、唐津市中小企業・小規模事業資金の継続・拡充

##### 2) 人口減の中での国内外販路開拓の支援

①唐津市中小事業者活性化支援補助金の継続・拡充

②佐賀県価格転嫁伴走型支援プロジェクトに加えての追加的支援

③販路開拓機会の創出と商品・サービス等の磨き上げの支援

④唐津市展示会出展支援事業補助金の継続・拡充

#### (2) 新たな地域経済の姿を切り拓く、スタートアップの育成の推進

社会経済が大きく変化している今日、次代の地域経済を牽引する新しい事業にチャレンジする多くの起業を生み育てる仕組み作りが重要です。

1) ローカルスタートアップ支援として、既存事業である唐津市 DX イノベーションセンター事業と市創業相談事業を融合させた唐津市創業支援等事業計画の策定が必要です。

2) UJI ターンをはじめ、移住・創業支策の継続・拡充

#### (3) JCC (ジャパン・コスメティックセンター) への支援の拡大

JCC は化粧品産業の集積と雇用の創出を目的に 2013 年に設立されこれまで大きな成果を上げてきました。化粧品に着目した産業クラスターを体系的に追及している地域は日本では JCC が唯一です。東南アジア・中国のこれからの発展を考えるとその役割はより大きなものがあります。これまで以上の支援が必要と考えます。

#### (4) 商工団体、観光団体への補助金の増額

個別の企業への支援においては伴走型支援が重要です。そのためには商工観光団体の職員の質量ともの充実なくしてその役割は果たせません。そのためにも団体に対する財政支援が重要です。

##### 1) 地元企業に伴走型で支援する商工団体の重要性の認識と補助金の増額

2) 域外からの交流人口増加に取り組む観光団体の重要性の認識と補助金の増額

## 2. 人口減少の中でこそ観光産業の重要性は高まっています。

電通の「ジャパンプランド調査 2024」(7/3)によると観光目的で再訪したい国・地域は日本が1位で、2位シンガポール、3位アメリカです。期待する上位3つは「多彩なグルメ」「他国と異なる独自の文化」「他国に無い自然景観」です。それは外国人に限らず日本人も同じです。唐津は正にこの3つの観光資源を高い水準で有しています。観光は裾野の広い産業で幅広い効果が期待できます。

**観光はもともと市外・県外・国外の人々を対象にしています。唐津の豊かな観光資源は何度も訪れる価値を有しています。人口減少の中では「観光は成長戦略の柱、地域活性化の切り札」です。**

観光唐津としてのブランドを確立することが重要です。唐津に実際に足を運ばないと味わえないようにすることが重要です。ストーリーとデザインと体験を組み合わせることが必要です。

### (1) 海の魅力を体験するマリン・アクティビティの活性化/佐賀県のKMAPとの有機的な連携の推進

4年前にゼロから始まった西の浜のSUPはすっかり唐津のマリン・アクティビティを代表するまでに育ち、今では市外からの多くの常連や観光客が参加するまでになりました。もう一段のステップアップを図り西の浜に往年の賑わいを復活させることが重要です。

- 1) 「ふれあい自然塾ひぜん」のSUP版を「西の浜」、「浜崎海岸」に設置してマリン・アクティビティの定着発展
- 2) 海岸沿いの市有地の賃貸条件を緩和して新たなマリン・アクティビティ施設や要望の強いカフェ等の利用にも対応できるようにすることが重要です。

### (2) 「食と器の縁結び」の街づくり 食の街唐津の情報発信と唐津焼産業の振興・唐津焼美術館の設立

唐津焼は全国的な知名度があるとともに最も人気のある陶磁器の代表と言えます。またここ数年、市外県外からの客を引き付ける飲食店が数多く開店しています。このような状況を観光資源と位置づけて支援していくことが重要と思われれます。

- 1) 「唐津やきもん祭り」、「唐津窯元ツーリズム」の拡充への財政的支援
- 2) 「唐津焼美術館構想」の策定

### (3) 市内に存在する観光資源を結ぶ2次交通の充実、観光ルートの設定

唐津は県土面積の2割を占める広大な地域に魅力ある観光資源が点在しています。それは逆に車以外での回遊の困難さを表しています。2次交通の充実が求められます。

- 1) 中心市街地におけるシェアサイクルの導入検討
- 2) JR唐津駅から上場地域(呼子、名護屋跡)、浜崎駅から七山など主要駅からの2次交通の支援

### (4) 高付加価値なインバウンド観光への支援の拡充

訪日客が今年7月末に過去最速で2,106万人となりました。年間訪日客は3,500万人も視野に入っています。訪日外国人の消費額は大きいので経済効果を唐津でも享受することが出来ようとする環境づくりが重要です。

- 1) キャッシュレス決済対応の推進支援
- 2) 宿泊施設のリノベーションへの支援
- 3) 広域連携による訪日外国人の誘客

(5) 呼子のイカ料理店等お客様集中店舗における待ち時間の解消策としての自動受付発券機器等導入支援

「呼子のイカ」は全国的に名を馳せています。いっぽう、お客さまは休日に集中して数時間待ちも珍しくありません。それはお客様に不満を抱かせるだけでなく待ち時間に他の観光資源を満喫する機会を失わせ、全体としての観光消費額を少なくしています。待ち時間を解消する機器の導入に対する支援が必要と考えます。

(6) 観光唐津の情報発信・送客を目指した「関係人口創出・拡大事業」の展開

定住人口が減少している中では、関係人口に目を向けることが重要です。唐津に3年ほど住まわれて大手広告代理店から独立されたS氏は東京で飲食店を開かれ、唐津・佐賀の商品を提供されています。氏のFBの2,3割は唐津・佐賀の話題です。こうした方々を組織化することでより効果的な情報発信ができるのではないのでしょうか。

また、修学旅行生の民泊は好評ですが、7,000人/年の受入れに対し15,000人/年の受入れを断っている状況です。彼らは将来の観光客であり関係人口になる可能性があります。

- 1) 大都市圏在住の市出身者やゆかりのある人的ネットワークの構築
- 2) 修学旅行生の受入れ拡大による将来の観光客・関係人口の形成に対する支援の拡大

(7) ふるさと納税の観光分野への活用による観光客増加とふるさと納税増加の好循環の実現

唐津市のふるさと納税は約32万人にのぼると聞きます。返礼品の選択は寄付者の自由意思に任せるのが原則です。返礼品の品揃えの中に「唐津旅行券」をそろえてはいかがでしょうか。宿泊や食事、マリン・アクティビティとセットにしたものを用意すれば唐津への旅行のきっかけとなるだけでなく唐津での消費が加わることが期待できます。

### 3. 賑わいと文化の香りで唐津の街の魅力を引き出そう。

唐津市は面積487.6kmで佐賀県全体の約20%を占めています。しかも20年前に9市町村が合併した経緯があります。人口減の中での都市経営には特別の困難があります。

いっぽう、地方都市における中高生が描く住みたくなる街は「おしゃれなお店」「賑わいのある空間」などが常に上位を占めています。

**魅力ある街は、若者が残り、若者を惹きつけます。人口減少の中でこそ魅力ある街づくりが重要です。**

唐津には豊かな自然・歴史と文化が息づいています。市民・団体の力でこれらの資源に磨きをかけていくことが重要です。市民が住んでいる街に誇りと愛着（シビックプライド）を持てるまちづくりをすることが大切です。

(1) 第3次中心市街地活性化基本計画の策定

現在、唐津市におかれては都市計画マスタープラン、立地適正化計画の策定が進められています。それを受けて第3次中心市街地活性化基本計画の策定が必要です。

(2) 観光唐津の玄関である唐津駅・北口広場のリノベーションの検討

唐津駅・駅広の導線が中央商店街やアルピノ（民間での再開発が予定）と有機的に結びついていません。効果的な導線が形成されるように、駅舎や北口広場のリノベーションの検討を提案します。また、レール&バスが効果的に形成されるように配慮されることを望み

ます。立地適正化計画が策定された時こそ絶好の機会と考えます。

(3) 呼子のイカと唐津Qサバの安定供給への対策

呼子のイカの不漁が続いています。原因究明と対策には困難が伴いますが国県の協力を得ながら対応をお願いします。また、Qサバも人気を博していますが海の環境によっては出荷できない場合があります。安定供給への対策をお願いします。

(4) 肥前名護屋城跡・陣跡の利活用と情報発信による誘客の継続と拡充

壮大な名護屋城跡に立つと歴史ロマンを感じざるを得ません。また、150余りの陣跡が確認されています。これは全国各地とのつながりを示しており今後の展開に大きな期待が持てます。佐賀県との連携により全国各地からの誘客の推進をお願いします。

(5) 県立大学の大規模ベースキャンプの唐津への誘致

県立大学構想では県全体を学びのフィールドとして現場での学習を展開するため学生の活動拠点（ベースキャンプ）を確保することになっています。県第2の都市である唐津市にはぜひ規模の大きいベースキャンプが確保されるように県に働きかけていただきたい。

(6) 「唐津港中長期ビジョン」に基づく唐津港港湾計画の改定に対する佐賀県への働きかけ

現行の唐津港港湾計画は平成17年に策定されたものです。この間、クルーズ船の寄港の増加、みなとオアシスの認定、火力発電所の廃止、バイオマス発電の建設など大きな変化があります。令和5年3月に策定された「唐津港中長期ビジョン」に基づく改定を佐賀県とともに進めてください。

(7) 文化活動、まちづくり、アウトドアアクティビティに対する支援制度の充実

唐津には実に多くの市民方々が、文化活動や街づくりの活動をされています。行政が直接携わるのではなく市民の手による街づくりはきめ細かな対応が出来るとともに、参加することによって町に誇りと愛着（シビックプライド）を持つことに繋がります。

(8) 歴史的建築物の活用による風情ある街並みの保存、活用に対する支援

石炭産業やクジ漁などで栄えた唐津には歴史的建築物が数多く残り、まちに風情を醸し出しています。これらは日頃目にする市民以上に観光客にとっては魅力的な価値を有しています。保存や活用は個人、一企業では難しい状況です。公共財としての保存活用に対する支援が必要と考えます。

(9) 巖木地区への商店の出店環境の整備を。

巖木地区はAコープとQショップが閉店して一定の品揃えのある商店がなくなりました。商圈の人口規模からは採算が難しい点がありますが、公共施設との併設や注文・宅配などの組み合わせによる成立の可能性は考えられます。佐賀鉄工所のこの地区への進出は良い機会だと思われまます。出店の環境整備への支援が必要と考えます。

## 結びに

唐津経済の現況及び地域の課題と強みにもとづいた施策の方向性を提案しています。予算編成及び制度設計について実務的な協議をお願いするものです。